

月刊

# ENG O

10月号

2014年10月1日

カトリック大阪大司教区 ENGO プロジェクト

発行責任者：松村繁彦（香里教会）

連絡先：TEL：072-834-3800

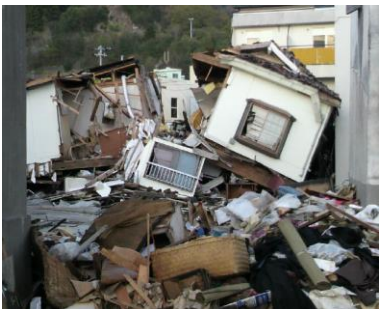
FAX：072-833-9271

e-mail: engo@osaka.catholic.jp

## ENG O の新しい動き

3年半の ENGO プロジェクト

### 《ENG O プロジェクトの振り返り》



2011年3月11日、東日本大震災発生後、教区の少数のメンバーで対応策が練られ、まず3月末に青年ボランティアスタッフを現地に派遣、塩釜、石巻を中心に支援を始めた。同年4月24日復活の主日に池長大司教様の公式発表により、大阪教区に東日本大震災後方支援室の設置と ENGO プロジェクトが立上げられ、公式に支援活動が開始された。

東北との距離の差も考え、「E（遠方の）N（仲間に）G（元気を）O（大阪から）」をモットーに、前線ではなく、後方から私たちでも出来ることを行うことを始めた。

①募金活動 ②現地視察 ③ボランティア派遣。当初はこの3つのプログラムで始めたが、その後、プロジェクトの一環として釜石を中心とする地域において、流された写真を洗浄してまた被災地に返す「フォトクリン」や仮設を少しでも彩る「クリスマスツリー作成」、中高生による応援の「ビーズの腕飾り」など、遠くから少しでも現地の方の心に明かりが灯るよう支援を続けてきた。



最初のプロジェクト作業「フォトクリン」

それと時を同じくして各小教区の社会活動委員会の方々もそれぞれに支援を始めた。情報の足りなさから、ENG O は各教会への情報提供や現地との橋渡しの役割も担い、月刊 ENG O を 2011 年秋には創刊することができ、各種情報もそのうえでお知らせすることができるようになった。その後全国規模の組織も出来上がったため、ENG O もその役割は ④月刊 ENG O 発行（各教会の支援状況の公開）⑤被災地写真パネル作成と貸出 ⑥祈りの集い ⑦全国との連携等広がっていった。

**大阪教区で**

**【ENG O プロジェクト】始まる！**

2011年4月24日(復活の主日)に大阪教区の池長大司教により仙台サポートセンター後方支援室の立ち上げが報告されました。大阪教区はそのことを受けてENG O プロジェクトを立ち上げました。

《ENG O プロジェクトとは》

- この大阪の地で仙台サポートセンターを支えるためのプロジェクトです。  
〔注〕仙台サポートセンターは石巻・新石巻・塩釜・釜石にボランティアベースをもっており、今後も様々な可能性がめざされる被災地・被災者、各都府県ボランティア活動の円滑化に力を入れ、被災地を応援しています。〕

《プロジェクトの支援内容は？》

- 仙台サポートセンターで必要なボランティアリーダーを現地へ派遣。
- 仙台サポートセンターの関連する被災地&ボランティア情報の提供。
- 東日本大震災にまつわる教区内各教会活動の情報の収集&提供。
- このプロジェクトを支えるための人的支援と募金を募集します。

《協力を行なうために！》

- 大阪教区ホームページに随時情報を掲載していきます。御確認下さい。ホームページ記載情報：「ボランティア申し込み」「募金申し込み」「各種情報」等

<p>協力をお願い！</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>『募金のお願い』</li> <li>『ボランティアリーダー募集』</li> <li>『各教会ボランティア活動情報の提供』</li> </ul>	<p>情報とお問合わせ</p> <p>【ENG O プロジェクト】</p> <p>Mall: engo-m@osaka.catholic.jp</p> <p>Tel: 090- Fax: 06-</p> <p>受付時間(平日)月～金:18～21時</p>
---	---

御理解と御協力をよろしくお願いいたします。

2011年5月  
大阪教区仙台サポートセンター後方支援室 責任者 神田 裕  
ENG O プロジェクト 担当司教 松村繁彦

ENG O 設置時に出されたポスター大阪管区の中心的支援地である宮城県および大船渡ベースの決定で、ENG O は大船渡ともより密接なつながりを設け、募金をボランティア派遣だけに留まらず、現地の人々への支援へと広げることができ、集められた募金が被災地の人々のために有効活用されるように広がっていった。

ENG O の活動以上に各教会単位で、宮城県だけに限らず福島県や岩手県にまでその支援は及んでいるため、その情報を広げる役目としても一役を担った。各教会におけるコンサートや支援活動の後援を担い、広報でのお手伝いもさせていただいた。

## 《ENGO プロジェクトの評価》

東日本大震災が起こってから早3年半。一見被災地の町並みは復興しているように見受けられ、マスメディアのニュースの少なさからも復興支援の終焉を迎えているように感じますが、まだまだ現地の状態は多くの人々の支援を必要としています。福島県、宮城県、岩手県のそれぞれの地域の状況差はあるにしても、私たちの支援を求めています。

人手不足と ENGO スタッフの少人数化のために、しばらく月刊 ENGO の刊行が滞



っておりましたが、その間も大阪教区内の各地域では被災地へ赴く活動、祈りの集い、コンサート、パネル展示や講演会、学習会や物産品販売等を開き、東北地域との絆を深め続けてきました。またこの夏には被災地の人々を受け入れるプログラムなども他教区との連携の中で行っており、まだまだ各教会では積極的な募金活動や視察が今なお続けられています。そして皆様からの募金も引き続きお預かりしています。

ENGO は陰ながらそれらの活動を支え、応援してきているとともに、今も被災地の視察を通して、正しい現状を確認し、いつでも皆さんにその状況を伝えられるよう準備をしています。そして、これからも継続してその活動は続けていかなければならないと、改めて被災地を訪れて感じています。ただし、今まで通りではなく、この3年半



各方面からパネル貸し出しの依頼が殺到。ENGO の啓蒙活動の一端を担った。

を振り返り、もっと良い方法を模索する必要があることも感じています。

## 最近の ENGO

### 《ENGO の新たなプロジェクト》 『おおふなトン』製作完了



フェルトでできた手のひらサイズの「おおふなトン」

2014年3月11日の東日本大震災から3年目を迎え、新たな動きが出てきた。

ENGO 担当の松村神父が被災地を訪れた際に大船渡教会の方に「次に私たちでもできる応援は？」という率直な質問に、「いつも身近においておける癒しグッズ」という返答を頂き、大船渡教会の信徒の吉田美和さんと共に大船渡市公認ゆるキャラ「おおふなトン」のぬいぐるみ製作にあたった。すでに文房具のキャラクターグッズはあったが、ぬくもりを感じられる商品は初めて。

大船渡市の公認キャラクターのため、幾つかの制限はあったが、吉田さんの丁寧な細部調整のおかげで、9月に無事製作が完了した。この製作費は大阪教区の皆さまから ENGO プロジェクトに頂いた募金から拠出。現地では教会や幼稚園関係者には無料で配布され手に取った方々は癒しのグッズとして大変喜ばれた。



無料で配られた「おおふなトン」に喜ぶ大船渡教会の方々

市内では物産品として販売を始めた。

売上は「おおふなトン」の増産か、次の支援グッズにしたいと吉田さんは語った。売上は全て大船渡支援のために使われます。

\*大阪教区内でも500円で販売しています。

購入希望は香里教会松村神父まで。

数に限りがありますのでご了承ください。

# 2013 年度決算

## 《総評》

\* 昨年度は国際協力の日に、大船渡教会の皆さんをお招きしました。直接被災地から来て頂き、思いを伝え、絆を確かめ合いたことは、現地に行けない方々にとっても大きな励みになりました。

\* ボランティア派遣には、支援制度を利用し、広く岩手・宮城・福島へ派遣が続いています。

いつも募金への協力ありがとうございます。今後ともどうぞよろしくお願い致します。

2014年3月31日

カトリック大阪大司教区 ENGOプロジェクト 2013年度 決算収支報告書

(2013年4月～2014年3月)

### 【収入の部】

(単位:円)

摘要	金額
ENGOプロジェクト献金	1,646,574
教会関係	1,623,310
修道会・諸団体	397,736
個人	3,667,620
献金合計	6,871,208
前期繰越金	10,538,828
収入合計	

### 【支出の部】

摘要	金額
長期ボランティア派遣 給付金 2名	100,000
ENGOプロジェクト派遣支援 11名	390,000
大船渡プロジェクト支援 (大阪 堺教会国際交流の旅)	3,142,530
大船渡プロジェクトスタッフ交通費他	178,930
大船渡ベース設立2周年式典参加交通費他	341,773
全国東北大震災復興支援会議交通費	51,849
通信費	39,258
印刷費 東日本大震災3年目リーフレット	24,150
ENGOプロジェクト会議 4名	21,560
合計	4,290,050
次期繰越金	6,248,778
支出合計	10,538,828

## ボランティア支援制度

被災地は一人でも多くのボランティアを求めています。大阪教区 ENGO プロジェクトは下記の表に従い派遣者に対して **①申し込み ②事前面談 ③事後報告書の提出**により交通費等の補助を、皆さまの寄付金から拠出させていただき、多くの方が被災地に赴きやすいようにしています。複数回現利用可です。どうぞ御利用下さい。

## パネルの貸出し

ENGOプロジェクトはパネルの貸し出しも行っています。今までには区民センターや社会福祉施設を始め、学校・幼稚園、教会などでも広く活用されており、その他の学習会や、種々の催し物でもご使用いただいています。ご利用希望の方はお気軽にご連絡下さい。 **(A3版 28枚セット)**

\*尚、震災当時を忘れない事を目的に作成されましたので、現在の状況を映したものはございません。

### ボランティア支援制度 (交通費等補助支援制度)

1週間 (往復の日程を含み、  
実質作業**5日**以上)  
条件: ①事前申し込み&面談  
②事後報告書提出  
補助: **30,000円**  
(報告書提出後振込)

2週間 (往復の日程を含み、  
実質作業**10日**以上)  
条件: ①事前面談&面談  
②事後報告書提出  
補助: **50,000円**  
(報告書提出後振込)

\*問合せ・申込みは ENGO プロジェクトまで  
面談・対応: ENGO プロジェクト担当司祭(神田神父・松村神父・春名神父)